

令和6年度第2回企画検討会における主な指摘と対応方針

資料2

大項目	中項目	主な指摘	対応方針
1. 有明の丘研修	周知・募集の改善	・ 現在の HP は情報が見つけにくい。構成・デザインを見直してはどうか。	・ R6年度中の見直しを検討する。
		・ パッケージの受講イメージやメリットが掴みにくいのではないか。学べる内容や受講期間等が分かるように周知・広報を改善してはどうか。	・ 周知・広報の改善について引き続き検討する。
	防災基礎受講者ニーズの把握	・ アンケート項目の追加は受講者の負担が増える。既存のアンケートの分析で、受講者の興味が低下している単元が把握できないか。 ・ 「必修として必要ない」という質問項目は曖昧で、回答者の立場などによって解釈が異なる。文言精査が必要。 ・ 現場対応する自治体担当者から実際の意見が集められないか。	・ 既存の受講者の属性やアンケートの分析などによる受講者ニーズの把握を検討する。
2. 地域研修	更なる周知	・ ブロック担当を配置し、都道府県に応募の声掛けをしてはどうか。また、取組状況のチラシ等の販促ツールがあると、営業しやすいのではないか。 ・ 近隣都道府県の職員が研修内容を理解できるようオブザーバ参加枠を設けてはどうか。	・ 声掛けや周知方法、募集時期などを検討し、次年度の周知・募集につなげる。
		・ 首長に発信するとトップダウンで動く可能性があるのではないか。	・ 防災担当大臣から全国知事会に働きかけ。
	意向調査の活用	・ 結果を都道府県に共有し、地域研修をアピールしてはどうか。 ・ 災害への備えが不十分と客観的な判断ができた場合、研修開催への強めの促しが必要となるのではないか。	・ 都道府県の意向調査の結果等から、今後、地域研修の対象として、積極的に声掛けする団体を整理する。
	演習の実施方法	・ 会場から遠い市町村は参加が難しい場合がある。オンラインを活用した開催形式があっても良いのではないか。	・ R6年度に対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式の演習を試行し、その効果について検証する。
3. e ラーニング	活用状況調査等	・ 視聴状況の調査の必要性を改めて検討して欲しい。・ 視聴者に属性等を入力してもらうほうが役に立つのではないか。	・ 引き続き検討する。
4. 人的ネットワーク	活性化	・ 宿泊付きの演習を検討してはどうか。 ・ 参加者のプロフィールや写真を含むリストを事前提供すれば、交流会等でも話しやすくなり、人的交流もしやすくなるのではないか。	・ 有明の丘研修(第1期)の取組も踏まえ、引き続き検討する。
5. 指導要領等	—	—	—
6. 能力評価	テストの難易度・形式	・ 正答率80%程度の達成感が得られる難易度に設定し、誤答時には再挑戦できる形式にしてはどうか。	・ テストWGにおいて引き続き検討する。